



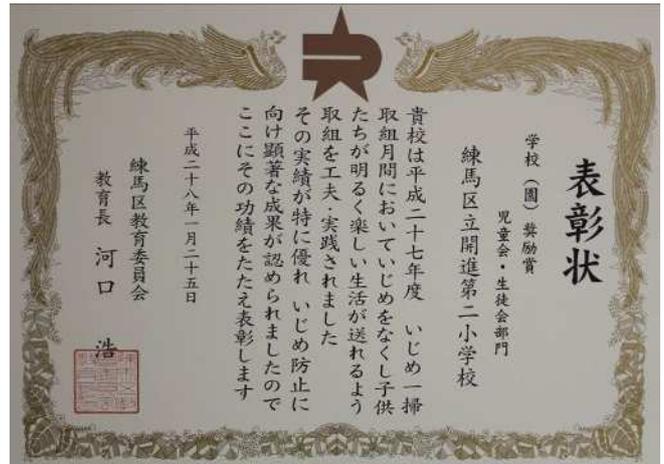
開二小だより

Vol. 162 第10号
 平成28年2月1日発行
 練馬区立開進第二小学校
 校長 長田 信彦
www.kaishin2-e.nerima-kyo.ed.jp

～ いいことはひとつもないじぶんがされたいやなことめのまえでやっていたらとめよう～

校長 長田 信彦

先月 25 日月曜日に、区民・産業プラザ Coconeri ホールにおいて練馬区教育委員会主催による「いじめ防止実践事例発表会」が開催されました。本校の代表委員会を中心に各委員会の子どもたちの「いじめ防止」への取り組みを評価して頂き、【児童会・生徒会部門】の『学校(園)奨励賞』を受賞することができました。当日は、田中 清美 主幹教諭と橋本 直志 主任教諭による口頭での事例発表もありました。開二小が力を入れている特別活動の充実がこの賞を受賞したこと、ここに報告させていただきます。



それでは、発表内容について記させていただきます。.....

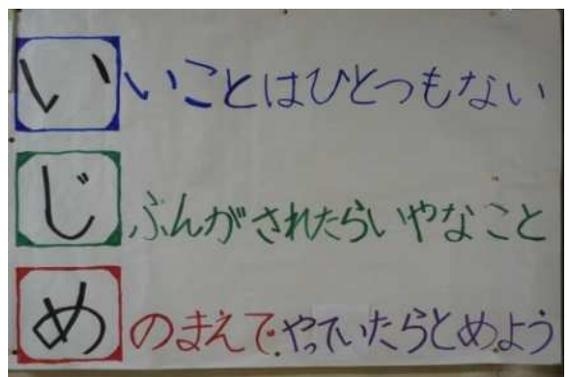
昨年度まで、本校の「いじめ一掃取組月間」は、いじめを題材にした道徳の授業や、学級での指導など教師主導による活動が中心でした。教師がねらいを明確にして指導するため、その場では話を聞いたり考えたりするものの、深く子ども心に残らないのではないかという不安が先生方からあがってきました。そのため、その問題を解決するためには、子どもの目線で考えた、子ども中心の活動を行っていくことが必要であると考えました。

本校の代表委員会は計画委員と各種委員会の委員長で構成されています。今年度は1ヶ月間に渡り挨拶運動に取り組むなど、積極的に活動する姿が見られました。そこで、「自分達の力で何かできることはないだろうか。」と夏休み明けの9月に投げかけてみました。

まず出されたのは、スローガンを作成して朝会で全校に呼びかけようというものでした。

全校児童に意識してもらえるスローガンにするためには、「覚えやすい」「意味が分かりやすい」「目につくところにある」などの意見が出され、「い」「じ」「め」を頭文字としたスローガンを作成しました。

それが「いいことはひとつもない 自分がされたいやなこと 目の前でやっていたら止めよう」というものでした。スローガンは「いじめ一掃取組月間」の開始に合わせ 11 月の最初の全校朝会で発表しました。



代表委員会ではスローガンの作成と共に、「いじめがない学校にするためにはどうしたら

よいか？」について話し合いました。それぞれの委員会で出来ることはないだろうかという意見が出されました。「いじめのない学校」とは「明るく 楽しく 気持よく過ごせる学校」と考え各委員会に持ち帰り具体的な活動を考えることになりました。

もちろん、委員会の活動内容上、全ての委員会が「いじめ防止」のための活動に取り組めるわけではありません。しかし、決まり切った活動だけをこなしていくのではなく、少しでも学校をよくしていくために話し合うことは大切だと思いました。

それでは、具体的な活動について紹介いたします。

放送委員会では、「いじめ一掃取組月間」間、朝の放送で「今月はふれあい月間です。友達と仲良く遊びましょう。」という内容の言葉をアナウンスの中に取り入れました。一日を気持よく始められるように朝一番の放送で呼び掛けたのです。また、子どもたちは朝から「いじめ」という暗いイメージの言葉を使うのではなく「仲良く」という言葉を使うことで楽しい学校にしようと話し合ったそうです。

図書委員会では、「いじめに関する本」や「読むと心が温かくなるような本」を探して紹介し、全校児童に読んでもらうことを考えました。まず、図書室にはいじめや友達と仲良くするという内容の本がどれ位あるかを調べました。すると予想していた以上に多くの本が見つかりました。そこで、たくさんの本の中から、是非読んでほしい本を何冊か選び出し図書室に「おすすめの本」コーナーを作りました。

集会委員会では、同じクラス、同じ学年の友達だけでなく、他学年の友達や先生とできるだけ多くふれ合えるように「王様じゃんけん集会」を企画しました。一斉にじゃんけんを行うのではなく、チェックポイントを多くして、できるだけ多くの友達とふれ合えるように工夫しました。

校内整備委員会では、校内をきれいにすることで、みんなが気持よく過ごすことができ、けんかやいじめがなくなると考え、校内の美化に力を入れました。また、スローガンが様々なところで見られるようにとスローガンを入れたポスターを代表委員と共に作り、各教室の前や昇降口に掲示しました。



昇降口のポスター 図書室のおすすめの本コーナー 昇降口のポスター

今回の取組の成果としては、代表委員会や各委員会で話し合ったことで、児童の目線から考えた活動を行うことができ、いじめ防止が児童にとってより身近なものとなったことが挙げられます。

正直なところ、今年度スタートした取組みですので、いじめ防止がまだ児童の心に深くしみ込んだとは言えません。ただ、来年度以降につながる第一歩にはなったと思っています。内容的にもまだまだ浅いものではあります。引き続き実践を重ねていくことで深めることができると考えています。今後も、児童が意欲的に自分達のための活動として考え、実践していけるように指導を行っていきます。